

「過去に発生した墜落災害事例」

- ◆東北電力ネットワーク(株) 配電部作成◆
- ◆東北七県電気工事組合連合会 一部修正◆

電力委託工事等検討員会資料

2025 (R7) 年2月19日

東北七県電気工事組合連合会

【痛ましい墜落災害事例の振り返り】

事例 1. 安全帯ロープのナス環をD環ではなくペンチ差に取り付けたため誤って墜落して**死亡**



日 時：2018 (H30) 年4月26日 (木)

15時00分頃 [晴]

場 所：当社 宮城支店管内

被災者：77歳 (経験57年)

引込線工事会社

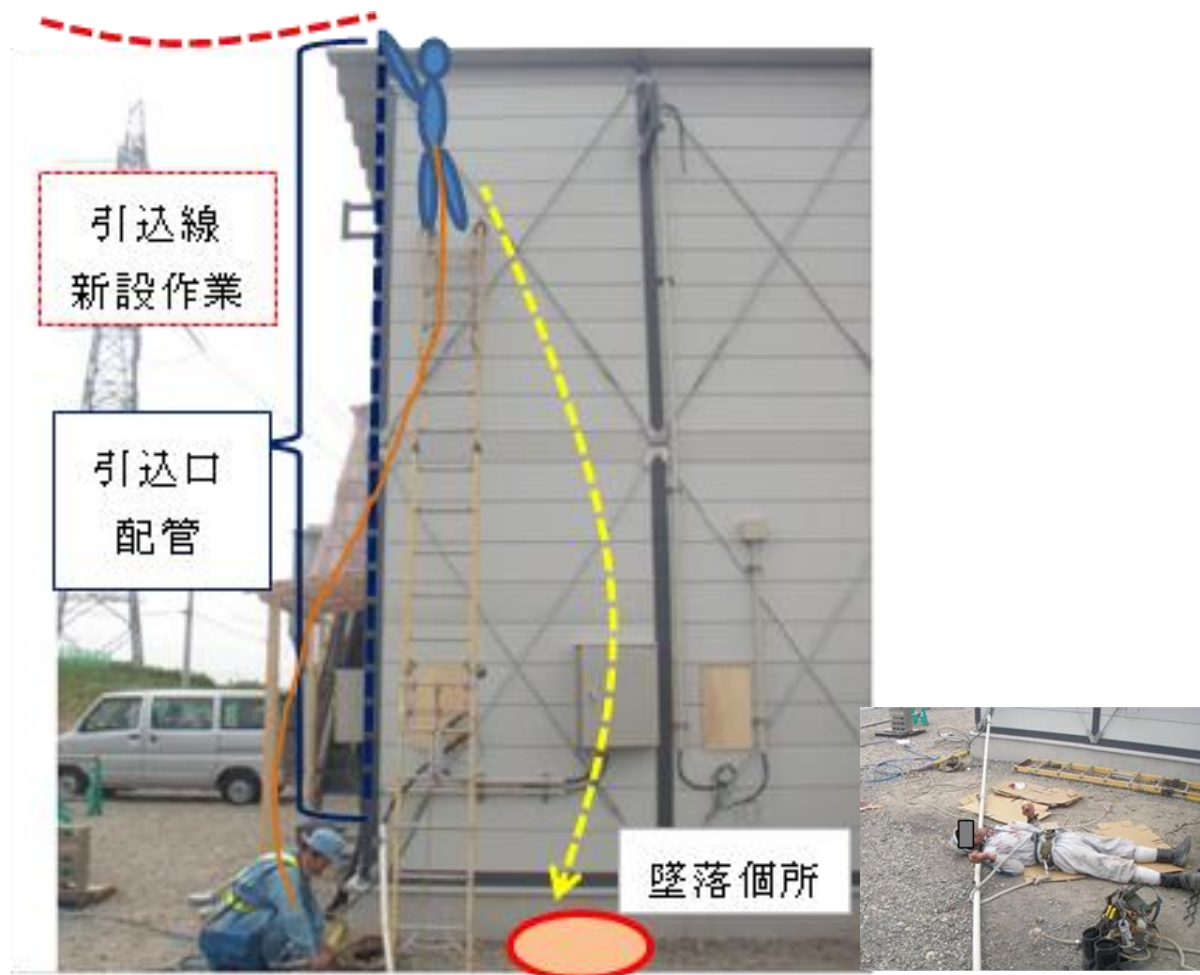
状 況

- ・ 引込線工事中に (地上8.0m) から墜落
- ・ 原因は、ナス環を誤ってペンチ差しに取付けたため。

再発防止

- ・ ナス環の取付け状況を「目」と「手」と「声」で確認する。
- ・ 安全帯のD環とD環の間には、工具差し等を取付けしない。
- ・ 作業前後の装備点検を行う。

事例 2. 短い梯子の最上段の踏ざんに昇って作業しようとした際、体位を崩して墜落死亡



日 時：2013 (H25) 年7月23日 (火)
10時25分頃 [曇り]
場 所：当社 新潟支店管内
被災者：55歳 (経験39年)
外線工事会社

状 況

- ・長さの足りない梯子を使用して最上段の踏ざんに昇り、無理な体勢で引込線を取り付けようとしたために梯子から墜落して死亡 (推定)。

再発防止

- ・ 梯子の立掛け角度は75度以下。
- ・ 3段目以上の踏ざんに足を掛けの作業禁止 (着色, 表示)。

- ◆作業責任者は電話をしながら右足のみで梯子を支持
- ◆人の体重を支えきれない引込口配管に胴綱を掛けた
- ◆柱上から梯子作業への節目で手順確認とKYの不足

事例3. トラックが鋼より線を引っ掛けたために ロープで押さえていた作業員が墜落して**死亡**

日時：2010 (H22) 年3月29日 (月)
10時45分頃 [晴]

場所：当社 山形支店管内

被災者：31歳 (経験12年11ヶ月)
外線工事会社

状況

- ・ 引込線工事中に高所作業車バケット (地上9.6m) から墜落。
- ・ 原因は補助ロープの不使用と交通誘導員の不足。

再発防止

- ・ 補助ロープの確実な使用。
- ・ 適正 (人数, 位置) な交通誘導員の配置。

その他

- ・ 6才, 4才の子供, 奥さんは妊娠中。



事例 4. 臨時供給工事のため降柱中に墜落死亡



日 時 : 2008 (H20) 年6月13日 (金)
15時15分頃 [晴]

場 所 : 東京電力管内

被災者 : 69歳 (経験20年以上)
引込線工事会社

状 況

- ・ 臨時引込線工事中に変台下部から墜落して死亡。
- ・ 安全帯に補助ロープ無し。
- ・ 安全帯, 胴綱は異常なし。

再発防止

- ・ 胴綱をD環に装着する際は, 目・手・声でしっかり確認。
- ・ 補助ロープの確実な使用。

事例5. 二階屋上で仮設ケーブルを敷設するため 後ろ向きに歩行中，誤って墜落して**重傷**



日時：2009 (H21) 年12月7日 (月)
13時15分頃 [曇り]
場所：当社 宮城支店管内
被災者：21歳 (経験2.5年)
外線工事会社

状況

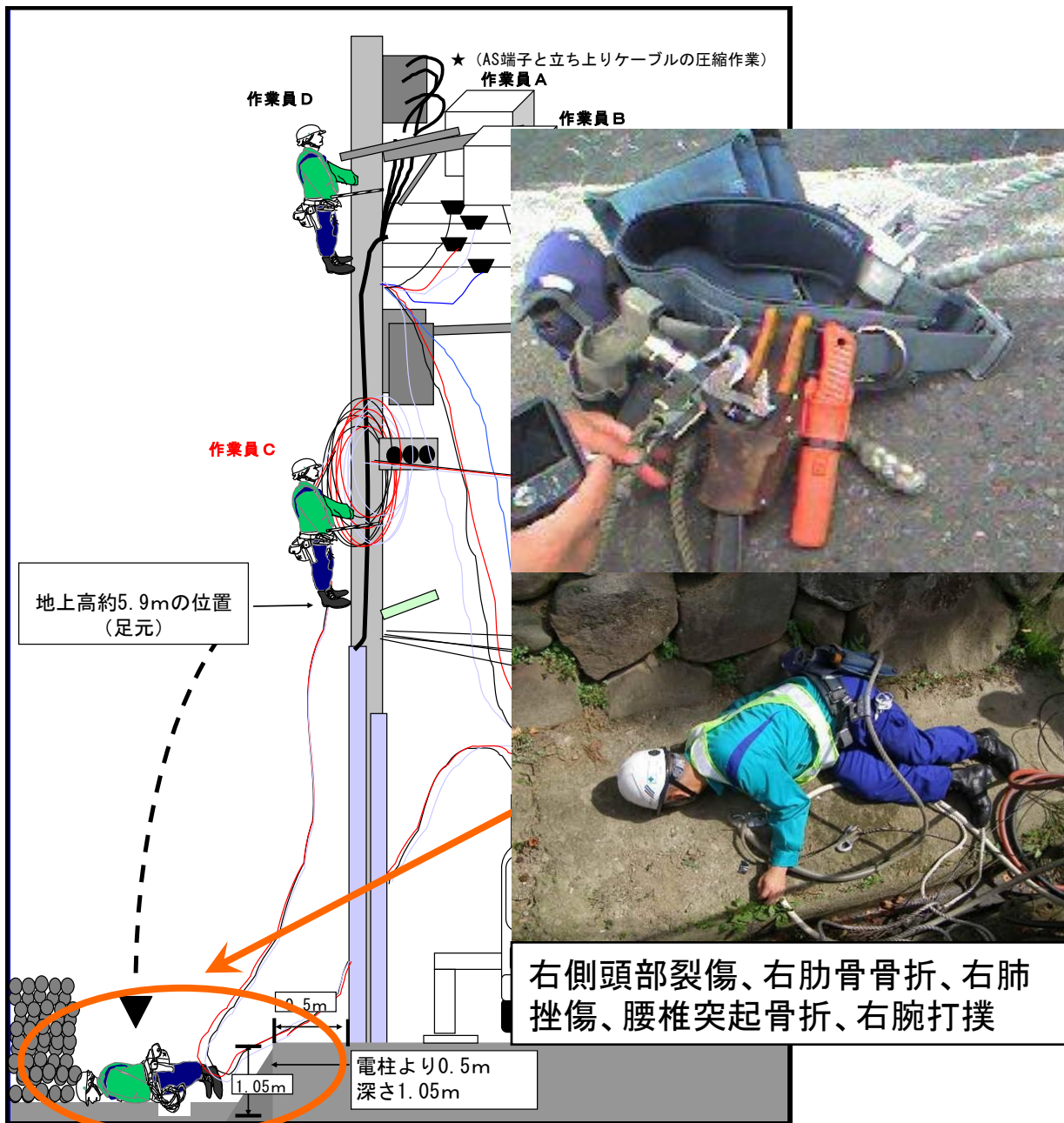
- 作業責任者がドラムからケーブルを繰り出し，それを作業員が手に持って後ろ向きに歩行中，屋上のへりにつまづき地上約8mから墜落。

再発防止

- 危険作業時の専任または相互監視の徹底。
- 作業範囲を区分するためパイロンと連結バーを設置。



事例 6. 柱上で無胴綱状態から墜落して重傷



日 時 : 2009 (H21) 年8月28日 (金)
10時30分頃 [晴]

場 所 : 当社 新潟支店管内
被災者 : 57歳 (経験39年)
外線工事会社

状 況

- ・ 工所用変圧器取付中に外灯上部 (地上5.9m) から墜落。
- ・ 原因は、胴綱、補助ロープの不
使用か? (本人の記憶無し)

再発防止

- ・ 胴綱をD環に装着する際は、
目・手・声でしっかり確認。
- ・ 補助ロープの確実な使用。
- ・ 胴綱用D環と補助ロープ用D環
の間に「工具挿し」等を取付け
しない。

事例7. 柱上で無胴綱状態から墜落して重傷

日時：2024 (R6) 年10月11日 (金)
9時3分頃 [晴]

場所：当社 福島支社管内

被災者：62歳 (経験33年)

引込線工事会社

状況

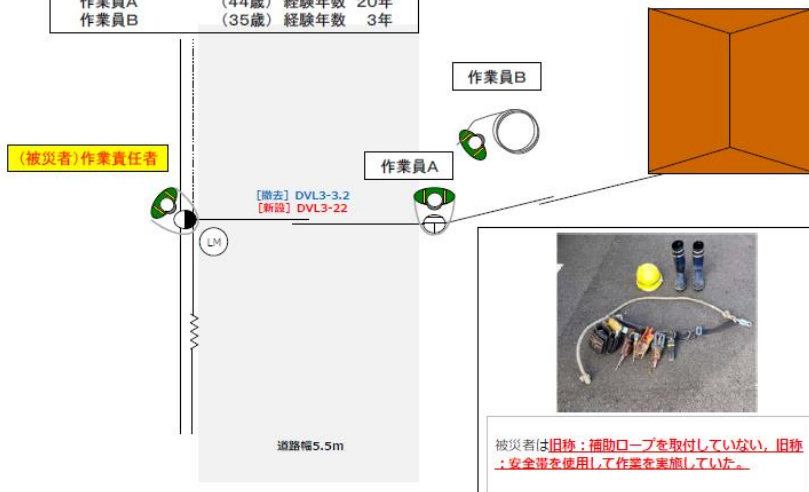
- ・ 引込線張替中に外灯付近 (地上5.0m) から墜落。
- ・ 原因は、胴綱、補助ロープの不使用 (フルハーネス未装着)。

再発防止

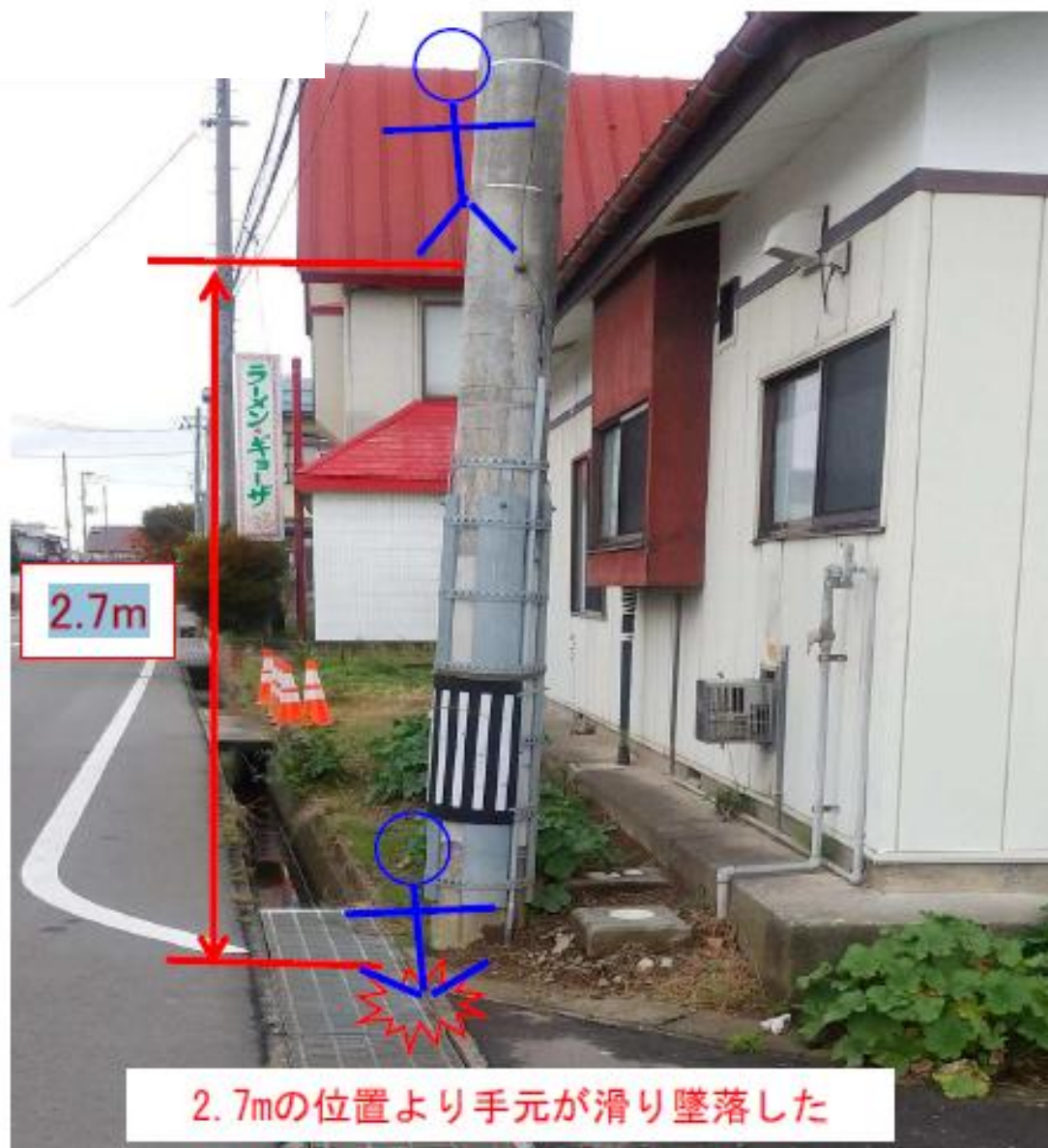
- ・ 高所作業時は、いかなる場合も無胴綱状態をつくらない。
- ・ フルハーネスの完全使用および装備不良・不備品の廃棄。
- ・ 職場風土改革 (トップの意識改革、チームワークづくり)



| | | |
|-------------|-------|----------|
| 作業責任者 (被災者) | (62歳) | 経験年数 33年 |
| 作業員A | (44歳) | 経験年数 20年 |
| 作業員B | (35歳) | 経験年数 3年 |



事例 8. CP昇降器側に体位を変えようとした際に 無胴網状態で墜落して**重傷**



日 時 : 2024 (R6) 年10月28日 (月)
10時5分頃 [曇り]

場 所 : 当社 福島支社管内

被災者 : 51歳 (経験28年)

配電業務受託会社

状 況

- ・ 引込線全撤中、CP昇降器付近で体位を変えた際に手元が滑り、地上2.7mから尻もち墜落。
- ・ 原因は、胴網、ランヤードの不使用 (フルハーネス装着)。

再発防止

- ・ 高所作業時は、いかなる場合も無胴網状態をつくらない。
- ・ 体位変更時は、手元・足元を確認し、体重移動の加減に注意。

■補助ロープの使用・未使用で受傷状況が大きく異なる

| 内 訳 | | 重傷災害（身体障害） | ヒヤリハット（怪我なし） |
|---------------|-------|--|--|
| 何が起きたのか | | 昇柱途中，足元が滑って身体のバランスを崩して 墜落 | 昇柱途中，左手にしびれを感じて手を離し，補助ロープ一本で 宙吊り |
| 何が悪かったのか | | <ul style="list-style-type: none"> 補助ロープの取付位置不適 命綱の目と手と声での確認省略（「カチャ」という音だけで確認） | |
| 何を思い・考え・行動したか | 災害前 | <ul style="list-style-type: none"> 資材を忘れたため，他の現場に取りに行くと時間ロスが発生。 同僚から「早く昇ってこい」と言われていた。 一人前に見られなくて少し急いだ。 | <ul style="list-style-type: none"> 腰より上部となる弱電用メッセンジャーワイヤーに補助ロープを掛けた。（漏電等による充電なし） 安全帯ロープを外した時，手がしびれたため，手を離してしまった。 |
| | 災害発生時 | <ul style="list-style-type: none"> 安全帯ロープおよび補助ロープは，安全帯のD環から外れた状態。 落下防止ネットに足が当たり体が一回転した後，背中から墜落。 第4，5間接頸椎粉碎骨折と診断後，腰の骨を削って頸椎部に埋め込んで金具で固定する手術を施した。 | <ul style="list-style-type: none"> 推定落下距離は0.8m 手のしびれ以外は，異常なし。 手がしびれた原因は，不明（診断結果異常なし） |
| | 現在 | 懸命なりハビリに取り組んでいるが， 両足は動かない状態 が継続。 | 通常どおり勤務 をしている。 |

■被災者が勤めていた会社社長の誓い（事例3）

災害直後

- ・ 作業員が墜落したと聞いて、すぐに車に飛び乗り作業現場へ向かった。何かの間違いであって欲しいと祈りながら現場へ到着したところ、数名の警察官が関係者からの聴取と現場確認・交通整理をしていた。
- ・ 既に被災者は近くの病院へ救急車で搬送され、高所作業車、安全带と血の付いたヘルメット、道路上には血痕があり現実である事が分かって体から血の引く思いだった。
- ・ 労働基準監督署も現場へ到着し、真っ先に聞かれたことは「安全带ロープは使用していたのか」でした。しかし、目の前にはD環にフックが掛ったままの高所作業車用安全带が残されていた。
- ・ 警察署からは搬送された被災者の容態を何度も聞かれた。数時間後死亡が確認された報が入ると、警察官が増員され、作業を再現した現場検証が始まった。

現在

- ・ 当時、被災者には新入学を心待ちしていた6歳の長男と入園式を楽しみにしていた4歳の長女、そして奥さんは妊娠7ヶ月。お子さん達の葬儀でのお別れの言葉には心を強く打たれ涙が止まらなくなった。このような悲惨な事故は、絶対起こさない、起こさせないと誓った。
- ・ 災害発生以来、毎月の月命日には朝礼時に全員で黙祷を捧げ、代表者で墓参りをして「無事故・無災害・施工ミスゼロ」を誓っている。

■残された家族の思い 「僕が大人になったら」 (事例3)

- ・ 引込線工事中，工事会社の若い作業員（31歳）が地上約10mの高所作業車バケットから墜落し，尊い命が奪われた。
- ・ 墜落防止のための補助ロープを装着するのにかかる時間はわずか数秒，たった一本の命綱を省略したために彼は，妊娠中の奥さんと6歳の男の子（春から小学一年生），3歳の女の子（春から幼稚園）を残して旅立ってしまった。
- ・ 葬儀を終えて数日が経ち，父親の衣類等を整理しているお母さんに長男が自分の願いを語った。

お母さん，お父さんが乗っていた車を売らないで
僕が大人になったら乗るから。
それから，お父さんが着ていた服も捨てないで
僕が大人になったら着るから。

- ・ しばらくして，警察より事故当日に被災者が身に付けていた作業服等が遺留品として家族に渡された。その時，作業用皮手袋を手にとった長男がこう言った。

お母さん，明日から僕，この手袋をして学校に行く。
いいよね，お母さん。

最後に

■ **人命に直結した5つの基本ルール**を必ず守る、守らせる、人に育てよう！

① 検電

② 短絡接地

③ 保護具・防具

④ フルハーネス（胴綱） ・ ランヤード

⑤ 倒壊防止（木柱、梯子、高所作業車）

■ 上記ルールは、指差呼称（目と手と声、そして心）でしっかり確認しよう。